

令和4年6月24日

内子町環境マネジメント推進本部長

内子町長 小野植 正久 様

内子町環境マネジメント監査チーム

主任監査員 小野 里枝美 

副主任監査員 多比良 康彦 

副主任監査員 水 本 隆 

数値目標 監査結果報告書

令和3年度内子町環境マネジメントシステムにおける数値目標の監査結果について
以下のとおり報告します。

1. 監査日時 令和4年6月23日(木) 午後3時00分～午後4時10分
2. 監査場所 内子町役場本庁 第3会議室
3. 監査内容 数値目標(令和3年度実績)監査

4. 監査結果

ステージ		目 標	達成 状況	評価
ホップ	A103	電気使用にかかる温室効果ガス排出量を、2019 年度比で 1.6%以上削減します。	×	△
	A104	公用車等の燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	×	
	A105	公用車の走行にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 0.6%以上削減します。	○	
	A106	その他燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、90%以上にします。	○	
	A108	コピー用紙等の使用量を、2025 年度までに、2019 年度比で 2.5%以上削減します。	○	
	M107	環境や環境マネジメントシステムにかかる職員研修を年 1 回以上開催します。職員はこれに積極的に参加し、その内容を理解します。	○	○
	M112	ホップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報や HP で年 50 回以上提供します。	○	○
ステップ	A205	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を 70%とします。	○	○
	A206	内子町環境基本計画に関連した独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を 90%とします。	○	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年 2 回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年 20 回以上設けます。	○	○
ジャンプ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を 3 つ以上設け、公表します。	×	△
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年 1 回開催します。	○	
	A307	えひめ AI-1 の利用促進を図るため、環境団体が主体となり農業分野における実践活動を 1 つ以上行います。	○	
	A308	環境団体が主体となり、環境に関する実践活動を、他団体と連携して 15 回以上開催します。	○	
	M304	ジャンプステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	×	△
	G302	町民や事業者、団体、自治会等の環境への取り組みについて、年 1 回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し公表します。	○	○
	G303	住民、団体等による主体的な活動を 5 種類以上サポートします。	○	

達成状況：○＝達成、×＝未達成

評価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

5. 所見

9つの評価項目について「○」（良好）＝6つ、「△」（改善要望）＝3つ、「×」（勧告）＝0となり、令和3年度と比べて「△」が1つ増え、「×」が1つ減りました。

「△」評価の1つは、ステップステージのエコオフィスにかかる目標です。6つのうち2つの項目で達成状況が「×」となっています。

A103の電気使用にかかる項目では、温室効果ガス排出量を2019年度比で1.6%削減するとの目標に対して、13.4%の増加という結果になりました。

主な要因として、コロナ禍における換気の必要性から夏季・冬季のエアコン使用にかかる電気使用量が増え、年間で3.1%の使用量増加となった点が挙げられています。さらに2019年12月以降、伊方原発3号機の停止に伴って火力発電の比重が高まったことから、温室効果ガスの排出量を算出するために用いる排出係数が2019年度0.500から2021年度0.550となり、使用量の増加に比べて、温室効果ガス排出量の増加率がより大きくなりました。

またA104の公用車等の燃料使用にかかる項目では、ガソリンの使用量は減少したものの、軽油の使用量が増加しました。これは、基準とする2019年は暖冬の影響でスキー場の営業期間がかなり短かったのに対し、2021年度は例年並みの営業期間となったで、降雪機等にかかる使用量が増加したと考えられます。

しかし、これらはいずれもやむを得ない事情によるもので、取り組み内容の後退等による未達成ではないことから、「△」評価としました。

残る2つの「△」評価は、ジャンプステージのエコアクション、エコマネジメントにかかる目標です。

これらは町内の事業所に取り組みの協力を求める内容で、コロナ禍で企業への働きかけ困難な状況であったこと等を考慮し、「△」評価としました。コロナ終息後の取り組みに期待します。

その他、環境基本計画にかかる事業の達成状況について、これまでの3段階評価を見直し、「一部実施できた」を、その実施状況によって「半分以上」実施できたものと「半分以下」であったものに分けて4段階評価としたことで、より実情を反映できるようになったと考えます。

全体を通してみると、コロナ禍が継続する中で、工夫しながら取り組みを進められている様子がうかがえました。

一方で、基準となる2019年度のスキー場の営業期間が短かったことやコロナ禍で出張機会が減少していることなど、取り組みの内容以外の部分で目標達成に影響が及

んでいる項目も多く、次年度以降、それが良い方に向かうと予想されるもの・悪い方に向かうと予想されるものが混在しています。

この先も、コロナと共存していかざるを得ない状況は続くと考えられ、目標達成が難しい場面も少なくないと思いますが、環境問題は「待ったなし」であり、できることを、着実に、進めていってほしいと思います。